

IR センター分析報告 身につけるべき学士力調査について

目的

学士力の基礎資料を得るため、学士力の汎用的スキル・専門的スキルをそれぞれについて本人がどの程度身につけていると認識しているか検討する。

対象

2022年3月卒業生対象。こども保育・教育専攻（以下、保・教）115名（回収率65.7%）、こども心理専攻（以降、心理）90名（87.4%）、モチベーション行動科学部（以降、モチベ）45名（83.3%）。

結果と考察

・汎用的スキル

項目	保・教	心理	モチベ	差
1.文化・社会と自然に関する知識を理解できる。	3.3	3.2	3.5	心理<モチベ
2.意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる。	4.3	4.1	4.1	
3.卒業後も自律・自立して学習できる。	3.8	3.5	3.6	心理<保・教
4.目標を設定し、自ら進んで取り組むことができる。	3.7	3.6	3.7	
5.問題を発見し、必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。	3.7	3.6	3.7	
6.獲得した知識・技能を総合的に活用し、課題に適用し、解決できる。	3.8	3.5	3.6	心理<保・教
7.情報を構造化し、分析・評価・統合し、論理的に活用できる。	3.3	3.3	3.5	
8.自然や社会的事象について、様々な表現方法を用いて分析し、他者に伝達できる。	3.4	3.2	3.3	
9.情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。	3.4	3.1	3.5	
10.既存の知識を活用して、新しい価値(アイデア、生産物、方法等)を生みだせる。	3.4	3.3	3.3	
11.自分の意見をわかりやすく伝えることができる。	3.4	3.2	3.3	
12.相手の意見を丁寧に聞くことができる。	4.4	4.3	4.3	
13.多様なメディアを主体的に利用し、他者と連携できる。	3.7	3.4	3.6	心理<保・教
14.他者と協調して行動できる。	4.2	4.0	4.0	
15.他者に目標や方向性を示し、その実現のために行動できる。	3.9	3.7	3.7	心理<保・教
16.自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる。	4.0	3.9	4.0	
17.自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる。	4.3	4.2	4.3	
18.よりよい社会を実現するために、自らの資質を活かして積極的に社会に関与できる。	3.7	3.6	3.6	
19.自らを律して行動できる。	3.6	3.7	3.6	
20.状況や変化に沈着な対応を行い、適正な行動ができる。	3.8	3.7	3.9	

注) 選択肢は「1. とても少ない」「2. 少ない」「3. どちらともいえない」「4. 多い」「5. とても多い」の5件法¹。それぞれ1～5で得点化。

汎用的スキルについては、過半数の内容において所属の違いが認められなかった。しかし、一部違いが認められた内容があり、それらにおいては心理専攻が保・教またはモチベに比べ低いという結果であった。自己評価であるため、実際にどのくらい修得しているかは不明であり、心理の学生が厳しめに自己評価している可能性も残る。これについては、今後、GPA 等他の基準との関連や成長の程度も含めて検討していく必要がある。また、当該年度の学生のみ認められる傾向か否かについては、今後継続的に検討をおこなう必要がある。

¹ 昨年度までとは選択肢の表現が異なる。昨年度までは「とても身についた」～「全く身につかなかった」としていたが、今年度より2年次からの変化を検討するために変更した。

・専門的スキル

項目	保・教	心理	モチベ
1.子どもの行動に対して、すばやく応じることができる。	3.8		
2.月案・週案・保育教育指導案等の計画に基づいた実践ができる。	3.3		
3.場面に必要な表現ができる。	3.6		
4.場面での環境を把握し、場面に求められる環境を作り出せる。	3.4		
5.円滑に担当クラスの運営を行える。	2.9		
6.子どもの行動を把握し、分析・考察できる。	3.6		
7.子どもの成長・発達に対して適正な評価が行える。	3.5		
8.自身を含めた保育・教育者の実践に対して適正な評価を行える。	3.4		
9.多様な情報を収集し、分析できる。	3.5		
10.保育・教育に必要な教材を創造・開発できる。	3.4		
11.実践に基づいた正確な記録を作成し、記述できる。	3.5		
12.月案・週案・保育教育指導案等の計画を作成できる。	3.3		
13.組織内外の人たちと連携・協業(協働)できる。	4.0		
1.統計的なデータを読み取り、科学的根拠を用いて説明できる。		3.0	
2.人の行動や言葉の深い意味を理解できる。		3.8	
3.心理学的な枠組みで人間の心の働きを理解できる。		3.7	
4.行動や感情の自己管理ができる。		3.6	
5.他者の立場に立ち、共感的に理解し関わりができる。		4.0	
6.子どもの多様な発達プロセスを科学的にとらえることができる。		3.5	
7.全体を俯瞰しながら、他者の置かれた状況を的確に判断し、適切な援助ができる。		3.5	
8.他者の立場を理解し、尊重しつつ、自分の意見も主張できる		3.5	
9.状況に応じた社会的スキルを身につけている。		3.5	
10.自らの感情や心の状態を理解し、調整することができる。		3.5	
1.自分自身を受け入れることができる。			3.7
2.人間の成長発達を理解できる。			4.0
3.客観的な視点で人間行動を理解し分析できる。			4.0
4.モチベーションやリーダーシップに関する専門的知識に基づいて行動できる。			3.5
5.他者を肯定的に理解することができる。			4.1
6.対人コミュニケーション理論にもとづいたコミュニケーションができる			3.8
7.自分の関わる企業・組織や市場の情報を収集することができる。			3.6
8.他者に情報を適切に伝達する素材をつくることができる。			3.6
9.組織のなかで自分の立場を理解し、運営にかかわることができる。			3.5
10.国内外の社会情勢を理解する広い視野をもつことができる。			3.2
11.組織経営を円滑化する戦略的な思考ができる。			3.0
12.さまざまな実践経験をもとに地域の人びとと連携できる。			3.1

専門的スキルについては、内容によって得点傾向が異なっていることが確認できた。

保・教においては、連携について得点が高かったが、計画や運営といった、現場に直結する内容において得点が低い傾向が認められた。実態と評価のずれがある可能性はあるが、注意深く対応していく必要はある。

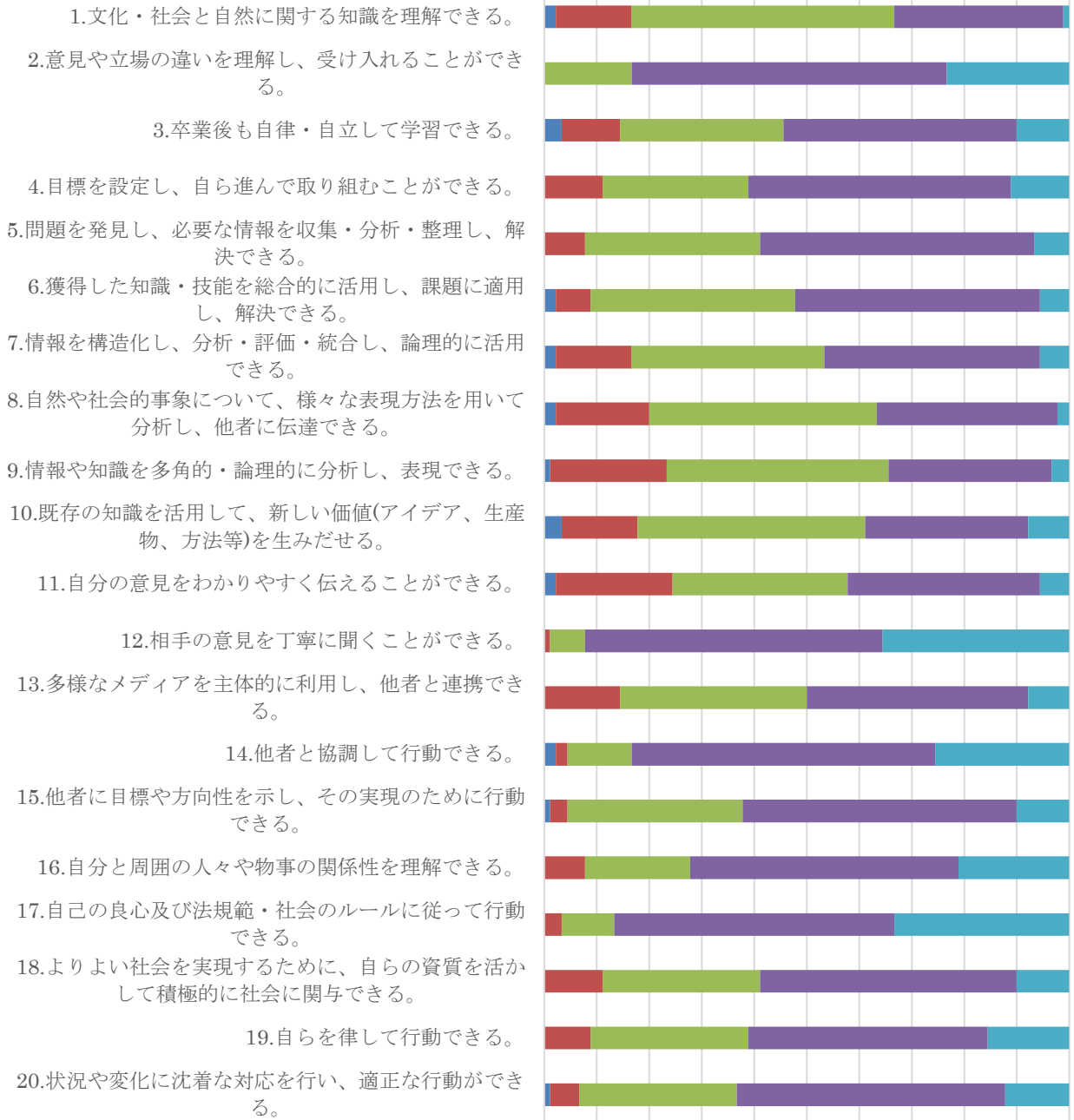
心理においては、他者の理解などに関わる内容は得点が高いが、データの活用については低めであった。カリキュラムの効果について考えて行く必要がある。

モチベにおいては、人間理解に関わる内容において得点が高めであったが、組織や地域社会の理解や関わりに関する内容において得点が低い傾向が認められた。経営領域科目の選択を避けた学生が低めの得点になったとも考えられるが、他専攻と同様にカリキュラムの有効性も考えていく必要がある。

以降、各スキルの回答について、回答選択肢ごとの帯グラフにて示す。

汎用（心理）

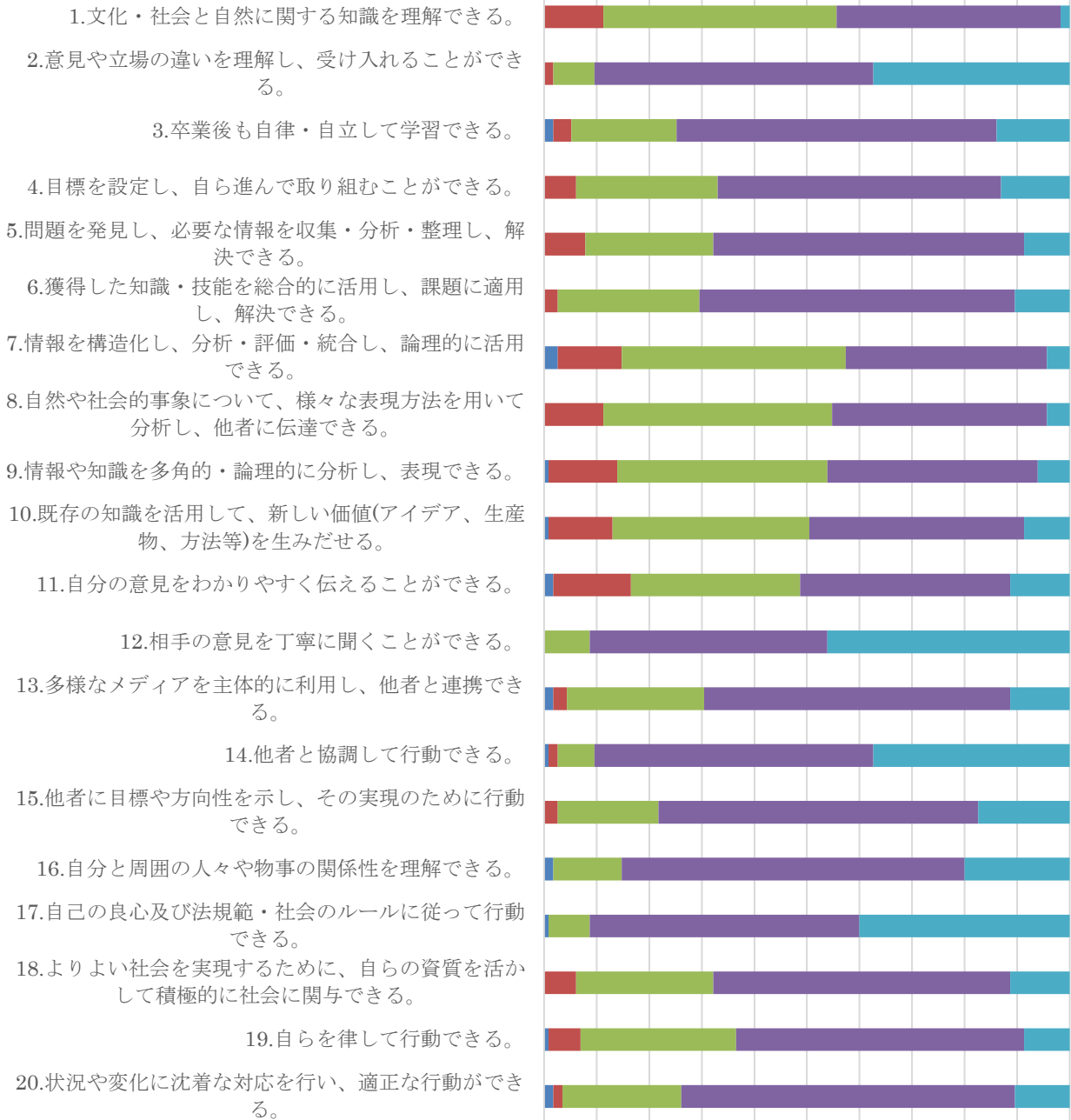
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■とても少ない ■少ない ■どちらともいえない ■多い ■とても多い

汎用（保・教）

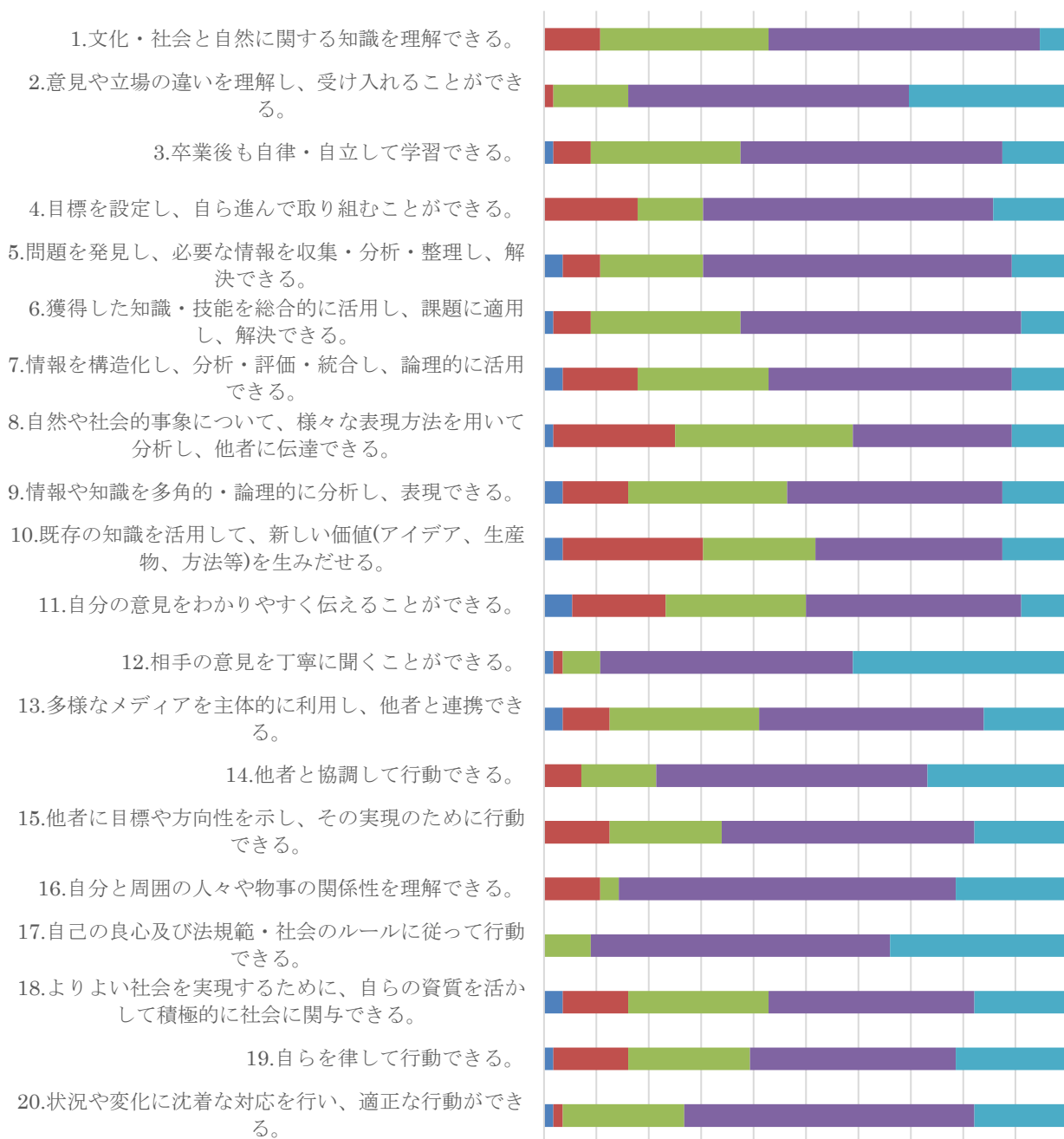
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■とても少ない ■少ない ■どちらともいえない ■多い ■とても多い

汎用（モチベ）

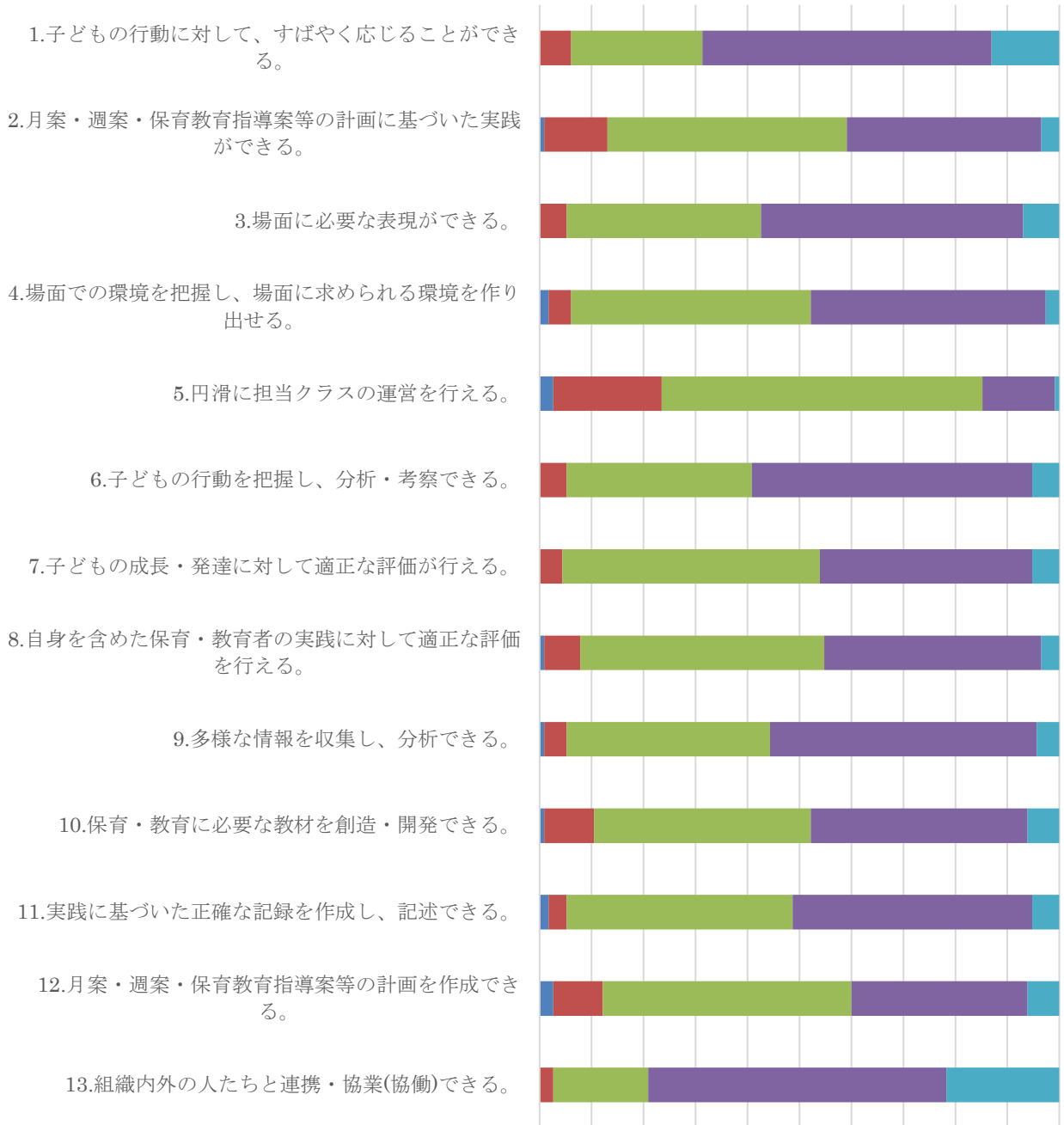
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■とても少ない ■少ない ■どちらともいえない ■多い ■とても多い

専門（保・教）

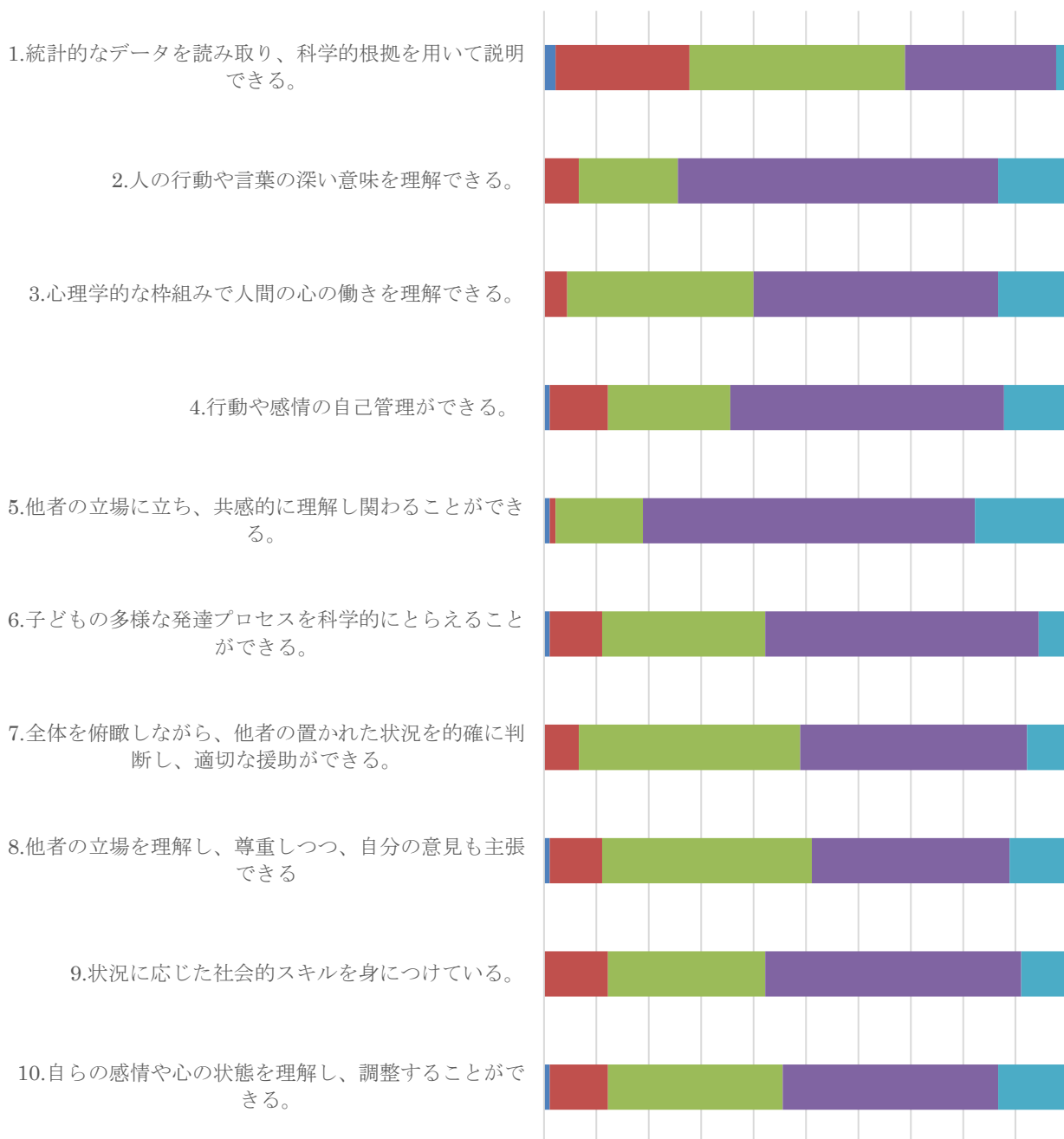
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ とても少ない ■ 少ない ■ どちらともいえない ■ 多い ■ とても多い

専門（心理）

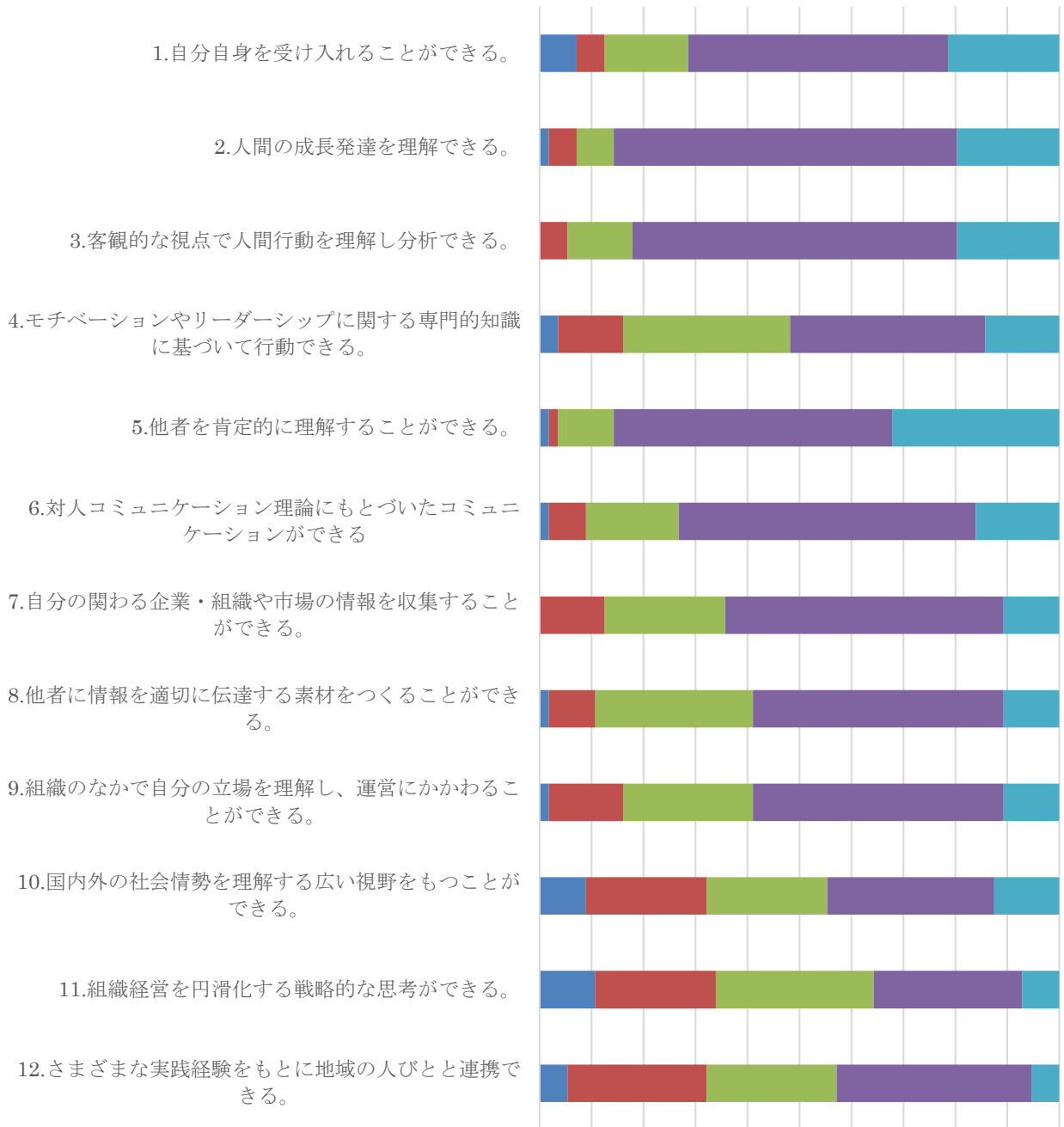
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■とても少ない ■少ない ■どちらともいえない ■多い ■とても多い

専門 (モチベ)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■とても少ない ■少ない ■どちらともいえない ■多い ■とても多い